

新潟県教員等育成指標の活用状況【県教育委員会】

1 指標を踏まえた研修等の改善

- 研修計画に指標、指標活用ガイドを掲載し、具体的なOJTでの活用例も合わせて掲載。
(参考資料1 平成30年度教職員研修計画 p2~9)
- 指標をもとに、各研修の対象者の経験年数に応じて、研修の効果やその成果の活用を考慮し、研修内容や実施方法を改善。
(別紙1 個別研修への反映状況)
- 県立教育センターで実施する全ての研修・講座において、実施要項に指標を掲載し、研修開始時のオリエンテーションで指標策定の意義と当該研修の指標上の位置付けを説明。
- 採用募集案内において、求める人材として指標の一部を掲載。
(参考資料2 平成31年度教員募集パンフレット p2)

2 課題と今後の対応

(1) 指標に対応した研修の実施

指標で示された「到達目標」が達成できるよう、既存の研修・講座については内容の改善・充実を進めるとともに、喫緊の課題については、研修・講座を新設する必要がある。

→ 新年度の研修・講座の見直し内容は、別紙2のとおり

(2) 研修効果の把握

受講者が研修修了後、指標で示された「項目」をどの程度身につけたか、どのようにして効果を把握するかその方法を検討し、内容の改善・充実に生かす必要がある。

→ 受講者アンケートで「指標」の達成状況を調査・検討する。

研修終了後のアンケートで、「指標」の達成状況が把握できる質問を新たに設定結果に基づき研修の見直しを進める。(PDCAサイクルを生かした研修内容の充実)

(3) 指標に関する関係機関相互の関連付け、共通理解の促進

教員養成～採用～教職経験各ステージにわたる、連続性のある資質・能力向上を図るためには、各関係機関での各取組の関連づけ、共通理解が必要。

→ 本協議会等での取組状況の情報共有、協議の継続
各学校への周知、広報の充実 等

＜基本研修＞

研修名	期	改善点
初任者研修 (小学校) (中学校) (特別支援学校)	1	学習指導「授業実践」に関して、指導力の基礎を確立するために研修を2年間に分散して、継続的な支援を行えるようにした。 生徒指導「児童生徒理解」に関して、コミュニケーションの重要性を理解するために、研修プログラムを見直し、校内実践につながるように前期・後期の2回に分けて実施した。
初任者研修 (高等学校・地区別研修)	1	「生徒指導」「学校運営」の指標に関して、昨年度まで初任者を2班に分けて県内2箇所(2地区)で行っていたものを、今年度はまとめて1箇所で実施することにより、参加者の多様な情報や意見の交換・共有ができるようになった。
教職5年経験者研修 (小・中・特) (高等学校)	2	学習指導「授業構想」に関して、「特別の教科 道徳」の講義を新たに設定し、その趣旨の理解と主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、資質・能力とねらいを明確にした授業ができるように県立教育センター指導主事が講義を行った。
中堅教諭等資質向上研修 (小・中・特) (高等学校)	3	学習指導「授業実践」に関して、小・中・特・高連携の視点を持ち、主体的・対話的で深い学びの授業改善を推進するために、異校種のグループ編成を行い、授業公開・協議会を実施した。 学校運営「教職員間の連携・協働」に関して、校内組織を動かすリーダー性の素地を養うために、コース別研修の内容に校内組織マネジメントの視点を追加した。
幼稚園経験者研修	各期	指標を講義や研修資料に取り入れた。教員育成指標と研修と実践の関係を説明した。

＜専門研修＞

研修名	期	改善点
学びの質向上研修会	2・3	「授業構想」「授業実践」の指標に関して、各教科における主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善や指導を、各自で実践するとともに、教科組織に働きかけことを課した。
生徒指導改善協議会	2・3	「いじめ等への問題行動への対応」の指標に関して、第三者委員会調査報告書をもとに、重大事案の未然防止、早期発見、適切な対応について、具体的に指導した。
教育課程研究員研修会	主に 2・3	指標を踏まえ、特に、若手教員の指導・支援の必要性を説明した。
適切な合理的配慮の提供の 在り方に関する研修	3	各校が、適切に合理的配慮を提供できるよう、センター的機能を有する特別支援学校管理職対象の研修を新設
公立学校体育主任研修会	3	高等学校は毎年、スポーツ庁政策課教科調査官から講演をいただいているが、新学習指導要領の内容を踏まえ、特に主体的・対話的で深い学びについて詳細に指導をしていただいた。
高等学校学校安全教育 指導者研修会	3	毎年、交通安全を中心に研修を実施してきたが、今年度より学校安全や防災教育についても研修内容に取り入れることで、様々な緊急事態発生時の対応や未然防止に関する知識を深められるようにした。
登山部顧問等安全登山講習会	1～3	那須雪崩事故をはじめとした過去の遭難事事故例及びその発生原因を踏まえ、緊急事態発生時の対応や未然防止に関する知識を深められるよう今年度から新たに実施した。

研修名	期	改善点
ミドルリーダー養成講座	3 ミドル リーダー	指標に示された「小・中・高連携の視点」をもち、「学校運営への参画」や組織的な研修、生徒指導の推進のため、協議「取組状況の交流」では、学習指導や生徒指導の取組について、校種を交えたグループ協議を行った。
教務主任研修会	ミドル リーダー	「学習指導」「学校運営」の指標に関して、新しい学習指導要領における教育課程や校内体制づくりを意識させる研修内容とした。
高等学校危機管理講座	校長	区分「危機管理」にある、「危機管理マニュアル」の見直し、改善のため、演習・協議「危機管理マニュアルを生かす協働体制づくり」において、各校のマニュアルを持参させ、他校との比較から改善に向けた視点を持たせる演習を取り入れた。
人権教育、同和教育指導者研修会	校長	「児童生徒の管理」の観点に関して、人権教育、同和教育の確実な実施において、いじめを含む事案を加えて指導した。
小・中・特別支援学校 新任校長、幼稚園新任園長 研修	校長	指標に示された「家庭・地域社会との連携」の観点から、人的、物的資源を有効に活用するために、協議「学校経営の現状と課題」では、県立生涯学習推進センター学習振興課中尾恵一 課長を講師に依頼し、講話「地域人材の活用における校長のリーダーシップ」の時間を設けた。 また、「勤務環境の管理」の観点から、信頼や同僚性の高い働きやすい職場づくりを行うため、京都教育大学 榊原禎宏 教授を講師に依頼し、講義「組織リーダーの要件とコミュニケーション」の中でコミュニケーションの様々な形態や方法、コミュニケーション関係の考え方について説いてもらった。
高等学校新任校長研修	校長	区分「学校教育の管理」にある、いじめ等への適切な対応のため、「いじめ問題の解決に向けた学校体制づくり」の講義を追加し、研修プログラムを改善した。 また、観点「家庭・地域社会との連携」を受けて、学校と地域の有効な連携のために、その分野の第一人者である株式会社きっかわ 吉川美貴 専務取締役を講師に依頼し、「リーダーシップとマネジメントー民間の組織経営に学ぶー」と題して講義してもらった。
幼・小・中・特別支援学校 新任教頭研修	教頭	指標に示された「組織運営の整備」の観点から、PDCA サイクルに基づいた教育活動を推進するために、新潟大学大学院雲尾周 准教授を講師に依頼し、「学校組織マネジメントと教員評価」の講義で、学校がチームとして協働することの意義に重点をかけて説いてもらった。 また、「教職員の育成」の観点から、職員を的確に評価し指導助言するために、上越教育大学 安藤知子 教授を講師に依頼し、講義「組織の活力を引き出すコミュニケーション」の中で教頭の役割を説いてもらった。
高等学校新任教頭研修	教頭	区分「学校教育の管理」にある、いじめ等への適切な対応のため、「いじめ問題の解決に向けた学校体制づくり」の講義を追加し、研修プログラムを改善した。 また、観点「組織運営の整備」を受けて、適材適所の人材活用のため、その分野の第一人者である株式会社ブルボン吉田康 代表取締役を講師に依頼し、「最適効果を生み出すための組織づくり、人づくりー会社経営の立場からー」と題して講義してもらった。